

〔令和元(2019)年度 明専スクール〕

私たちが企業人となるためには

情報工学府学際情報工学専攻M2 後藤 裕輔



自己実現と働くこと

講師の先輩方から、社会人として何が大事なのか、何を考えて社会へ飛び出していけばよいのかを学びました。

私が特に印象に残ったのは、企業人として働くことが自己実現につながるという言葉でした。今まで、働くことは賃金を得るための行為であると強く考えていた部分がありましたが、確かに重要なことですが、その枠に収まっていはいけなさと感じました。自己実現を意識しつつ、社会に貢献できる企業人になりたいと感じました。

対話するということ

グループ討議において私はプレゼンターとして参加しました。与えられた討議のテーマはイノベーション。イノベーションを通して企業理念を実現するために、技術に堪能なる土君子としてどう行動するべきか。このテーマと相対した時、よく見る言葉ではあるが、答えのない難しいテーマであると思ひ、難航するだろうと感じました。その予想は的中し、考えが二分して最終着地点がわからなくなっていました。私たちはディスカッションという点では良かったかもしれませんが、「対話」という点では全くできていなかったのかなと深く反省しました。どれだけ着眼点が良くても、発想が面白くても、対話が薄ければ効果は半減します。2日目にはなんとか持ち直し、納得のいく形で発表ができました。結果としては最優秀賞に届きません



グループ討議の様子

私たちの未来

でしたが、自分にできる全力を發揮できたと思います。このグループ討議で私たちは対話の重要性を課題として再確認できたと思います。企業人としてこの感覚を忘れずに、目の前の事案に対してベストを尽くしたいと思います。

この3日間の明専スクールで、私たちは企業人として社会に貢献するための一歩を踏み出しました。講義・対話を通じて各人が先輩たちの思いをそれぞれ受け取りました。そ



スクール修了時に行った決意表明

して私たちが理想とする社会人像が少しずつ出来上がってきたのだと思います。進む業種も職場もバラバラな私たちですが、明専スクールで学んだ「技術に堪能なる土君子」として、イノベーションを起こす企業人になれるように今後も努力を重ね、邁進していきます。

最後にこの明専スクール開講に尽力していただいた明専会、大学関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

(NRIシステムテクノ内定)

(令和元年11月記)